シリーズ共に学びましょう No76

学び人　行き交う町　たてしな

指導主事だより

なんだか　うれしい

教育委員会

相談時間等

- 立科小学校/午前９時～午前11時30分
  電話0267－56－3131（呼）
- 立科中学校／午後２時～午後５時
  電話0267－56－1076（呼）
- 立科町児童館／
  午前11時50分～午後１時40分
  電話0267－56－0248（呼）

〔担当　指導主事　中島一彦〕

中学生の学び（探究）の成果を小学生に届ける！

「ゴジラの社会に与えた力」をテーマに探究し続けた中学三年生寺﨑裕一朗君、14歳。探究の歩みの中で、絵画や彫塑にも挑み続けています。会場に彼がこれまで制作してきた多くの作品が持ち込まれました。それら作品群を前に、裕一朗君が小学生、教師たちに、自らの学びの一端を語ってくれました。

〇興行収入や社会情勢とつなげたゴジラ人気の推移
〇年度ごとの集客数のグラフからの考察
〇映画作成に関わる人々の言葉
・・・様々な資料を持ち込み、考察をしていく探究力に圧倒されました。
〇つぶやきや質問に、的確かつ具体的に応じる取り組みの奥深さ
〇子どもたちや先生方の質問ひとつひとつに丁寧に対応する誠実さ
・・・様々な企画展にも足を運び続け、実際の出来事に触れ、学びを広げていく意欲にも強く心を動かされます。

裕一朗君の語りを聞きながら「幸せ」という言葉を思い続けました。「幸せ」の言葉が、満たされ、柔らかさを感じる反面、なかなか近寄りがたい、自分とは距離があるように感じることもあります。その違和感を思い出したのは、「今は幸せ」と語る裕一朗君の背景に、たくさんの格闘がみえてきたからです。

掲載の彫塑・絵画共
立科中学校　3年
寺﨑　裕一朗　作（2026）※現在は高校一年生

発表の後半、「苦しみや悩みもありました」「学校に行きたいけれど、行けない・・・」と静かに語り始めた裕一朗君。戸惑い、つまずきながらも、作品に、暮らしに向かい続けてきた日々が、そこにありました。

裕一朗君が自らの心と対話し、ときには、あたふたとよろめくような思いも抱えながら、作品のひとつひとつに心の声を反映させ、作品からの声に耳を傾け、創り上げていく。自分で分かっていく人生を歩み続けようとするからこそ、生まれ出る戸惑いや悩み。

発表会の最後に、「家族や友の存在に支えられながらの自分」を語ってくれました。自分が根ざしている場所を探し当てたように思えたのです。

思い悩みから問いを生み出し、問いと共に生き続ける日々。そういう様々を「今の自分は幸せ」と語る裕一朗君。**誰かの言葉ではない自分自身でつかんだ幸せ。**

これからもたくさんの葛藤をかみしめながら、豊かな生き方を求めようとする自分探しの旅路に向かっていこう。表面的な「幸せ」という言葉に簡単に自分を重ねないように。みんなが満足しても、自分が満足できなかったり、違和感を覚えたり、意味が分からなかったり。そこから考えてみよう。みんなにぶつけてみよう。

今日の君の話にたくさんの子どもたちや大人たちが、自分自身との対話を深め、元気をもらっていましたよ。
ありがとう。